

【集中治療室部門におけるサーベイランスの概要と目的】

集中治療室（ICU）部門は、ICUにおける人工呼吸器関連肺炎、尿路感染、カテーテル関連血流感染の発生状況¹⁾を監視し、その原因菌に関するデータを参加医療機関から収集している。各感染症について全参加医療機関の感染症発生率を1,000患者・日当たりの発生件数で表し²⁾、感染症発生率の分布と合わせて一般公開している。また感染症別に原因菌の分離件数を算出している。

これらのデータによって、ICUにおけるデバイス関連感染症防止対策を支援することを目的としている。

【図表】

1. 集中治療室入室患者数
2. 解析対象患者の患者・日
3. 感染症発生率
4. 感染症別原因菌

人工呼吸器関連肺炎

尿路感染症

カテーテル関連血流感染症

全感染症

【解説】

1. 参加医療機関数、解析対象患者数（図表1）

今回の半期報（2010年7月～12月）におけるデータ提出医療機関数は、108医療機関であった。ICU入室患者数は30,441人で、このうち熱傷患者およびICU在室日数が2日以内の患者を除いた解析対象患者数は10,862人（35.7%）であった。解析対象患者数の中央値は86.5人、平均値は101人であった。

2. 解析対象患者の患者・日（図表2）

解析対象患者の患者・日は合計95,765患者・日で、中央値は721患者・日、平均値は887患者・日であった。

3. 感染症発生率（図表3）

感染症発生件数は合計352件であった。人工呼吸器関連肺炎の発生率が1.9件/1,000患者・日（181件）と最も多く、次いでカテーテル関連血流感染症が1.3件/1,000患者・日（120件）で、尿路感染症が最も少なく0.5件/1,000患者・日（51件）であった。

4. 原因菌（図表4）

感染症の原因菌として報告された分離件数³⁾は437件で、原因菌として最も多いのが緑膿菌で17.4%、次いでメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）が13.5%、*Stenotrophomonas maltophilia*が6.2%であった。

人工呼吸器関連肺炎の原因菌として報告された分離件数は242件で、緑膿菌が最も多く19.4%を占め、次いでMRSAが16.5%、*S. maltophilia*が9.9%であった。尿路感染症の原因菌として報告された分離件数は56件で、緑膿菌が最も多く30.4%を占め、次いで大腸菌が14.3%、*Candida albicans*が10.7%であった。カテーテル関連血流感染症の原因菌として報告された分離件数は139件で、表皮ブドウ球菌が最も多く14.4%を占め、次いでMRSAが12.2%、緑膿菌が8.6%であった。

院内感染対策サーベイランス公開情報 ICU 部門

2010 年 7 月～12 月期報

- 1) 判断基準については http://www.nih-janis.jp/section/standard/standard_icu_ver1.2_20100112.pdf を参照。
- 2) 米国 CDC が行っている NHSN における単位は 1,000 デイバイス・日を用いているため、JANIS のデータとの比較には注意が必要である。
- 3) 個々の感染症において複数の原因菌が報告されている例があるため、感染症発生数合計と同数にはならない。

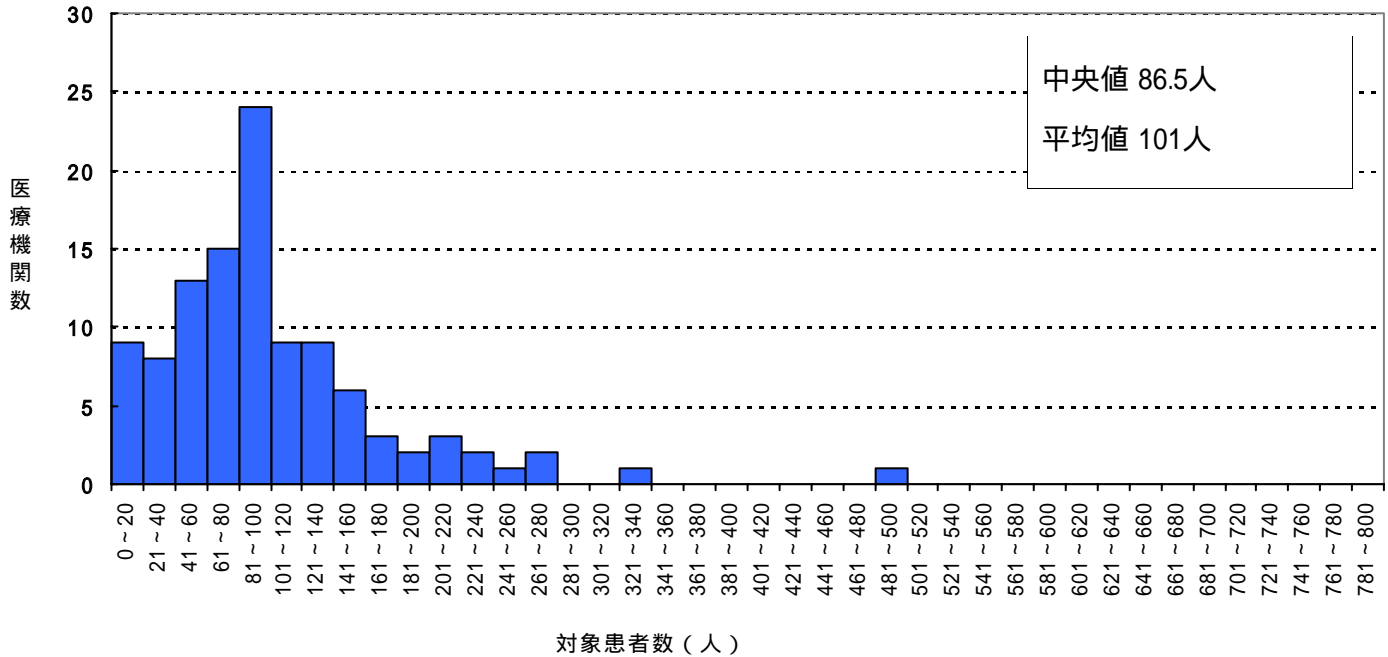
院内感染対策サーベイランス公開情報 ICU部門

2010年7月～12月期報

1. 集中治療室入室患者数

ICU入室患者数*	解析対象患者数**	1医療機関あたりの解析対象患者数(平均値)***	各医療機関の解析対象患者数の分布
30441	10862	101	

各医療機関の解析対象患者数の分布 (n=108)



*: 熱傷患者を除く

** : 熱傷患者、ICU在室日数が2日以内の患者を除く

***: 1医療機関あたりの解析対象患者数(平均値) = 解析対象患者数 ÷ 参加医療機関数

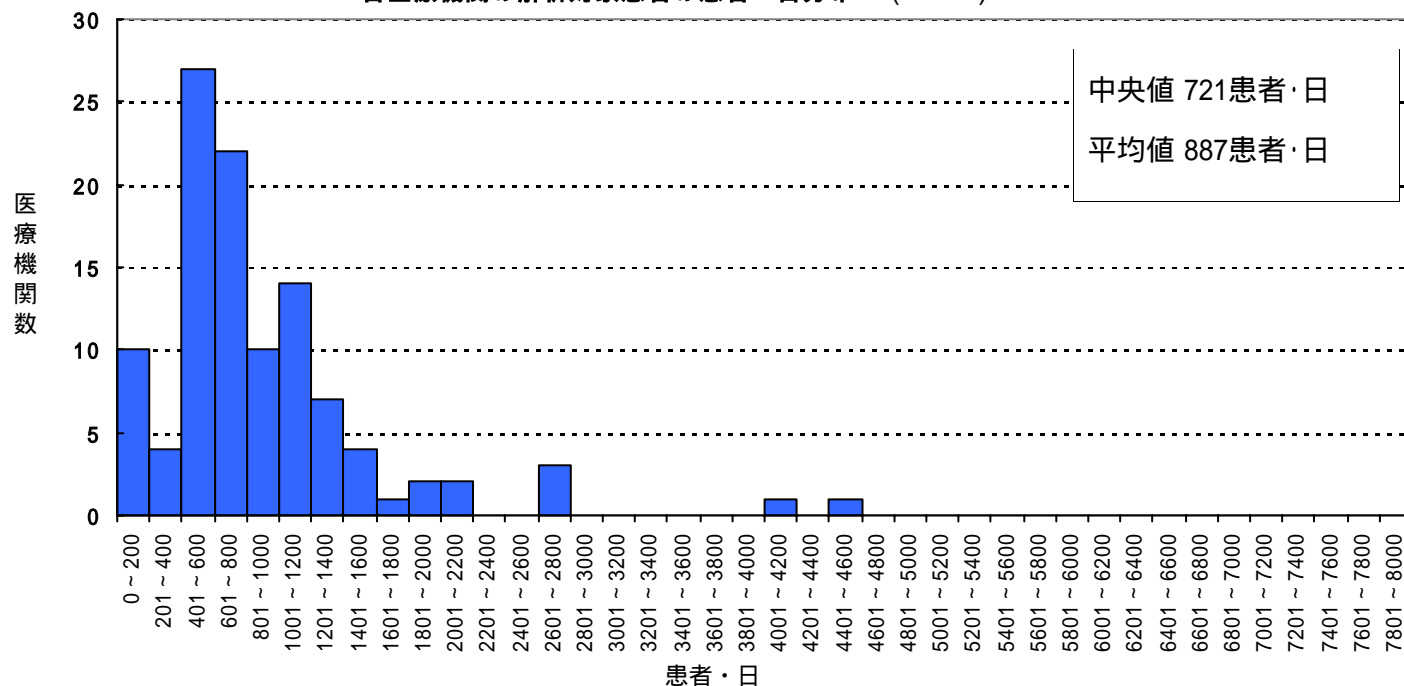
院内感染対策サーベイランス公開情報 ICU部門

2010年7月～12月期報

2. 解析対象患者の患者・日

全参加医療機関患者・日合計	1医療機関あたりの患者・日(平均値)*	各医療機関の患者・日の分布
95765	887	

各医療機関の解析対象患者の患者・日分布 (n=108)



*: 1医療機関あたりの患者・日(平均値) = 全参加医療機関患者・日合計 ÷ 参加医療機関数

院内感染対策サーベイランス公開情報 ICU部門

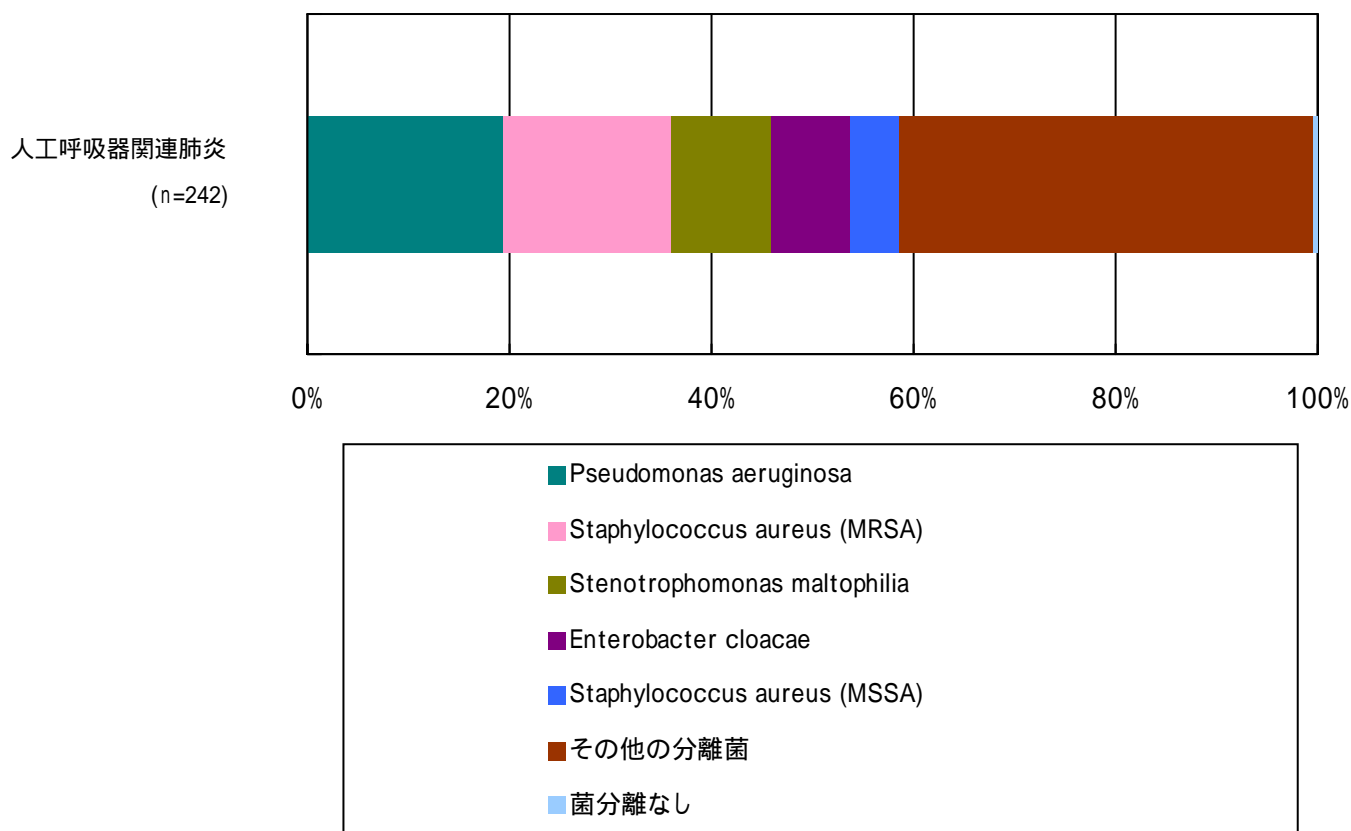
2010年7月～12月期報

3. 感染症発生率

	全医療機関 合計発生数	感染症発生率 (件/1000患者・日) *	感染症発生率の参加医療機関分布
人工呼吸器関連肺炎	181	1.9	 13.4
尿路感染症	51	0.5	 15.1
カテーテル関連血流 感染症	120	1.3	 20.1

*: 感染症発生率(件/1000患者・日) = (全参加医療機関合計発生数 ÷ 全参加医療機関患者・日合計) × 1000

4 . 感染症別原因菌（人工呼吸器関連肺炎）

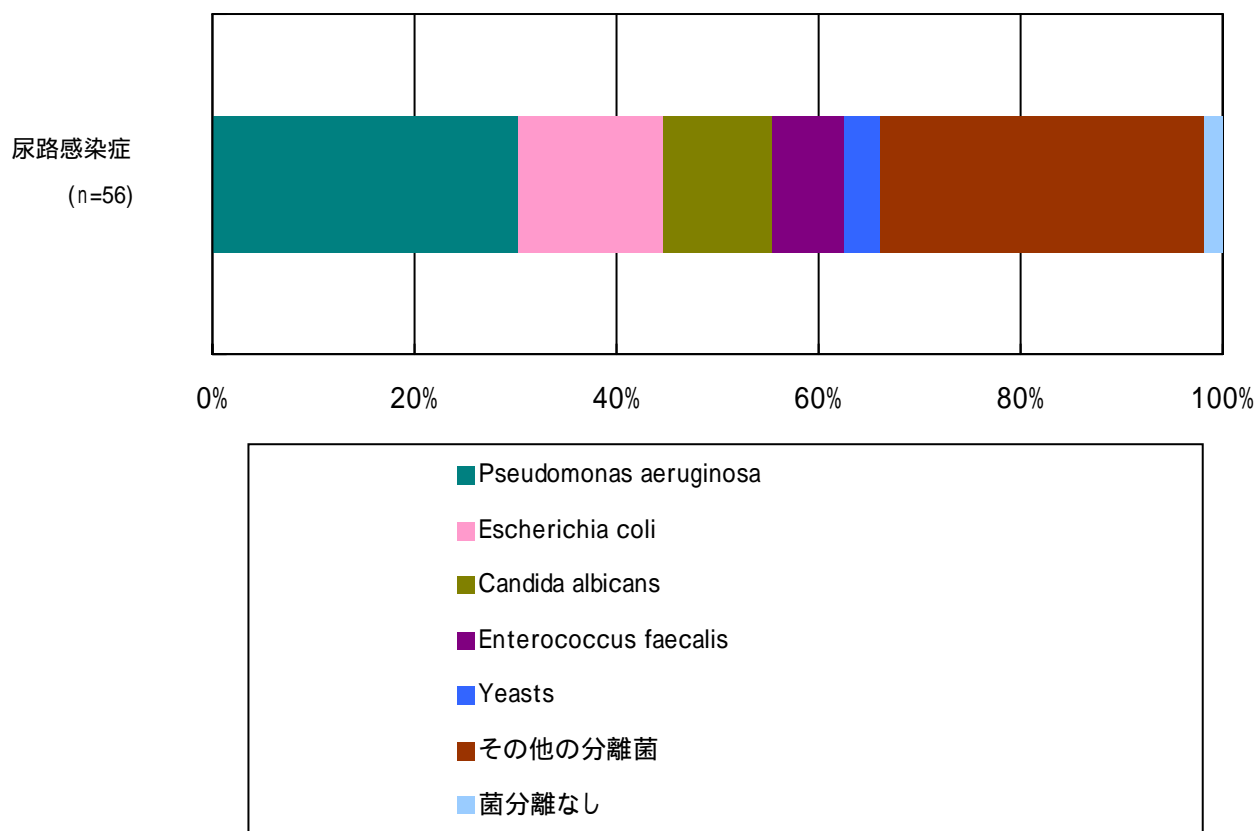


原因菌 *	原因菌分離件数 (%)	
Pseudomonas aeruginosa	47	(19.4%)
Staphylococcus aureus (MRSA)	40	(16.5%)
Stenotrophomonas maltophilia	24	(9.9%)
Enterobacter cloacae	19	(7.9%)
Staphylococcus aureus (MSSA)	12	(5.0%)
その他の分離菌	99	(40.9%)
菌分離なし	1	(0.4%)
合計	242	(100.0%)
培養検査なし	0	

(原因菌は上位5菌種のみ表示しています。)

*菌名は菌名コード (http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode_ver3.1_20070701.xls) に準拠

4 . 感染症別原因菌（尿路感染症）

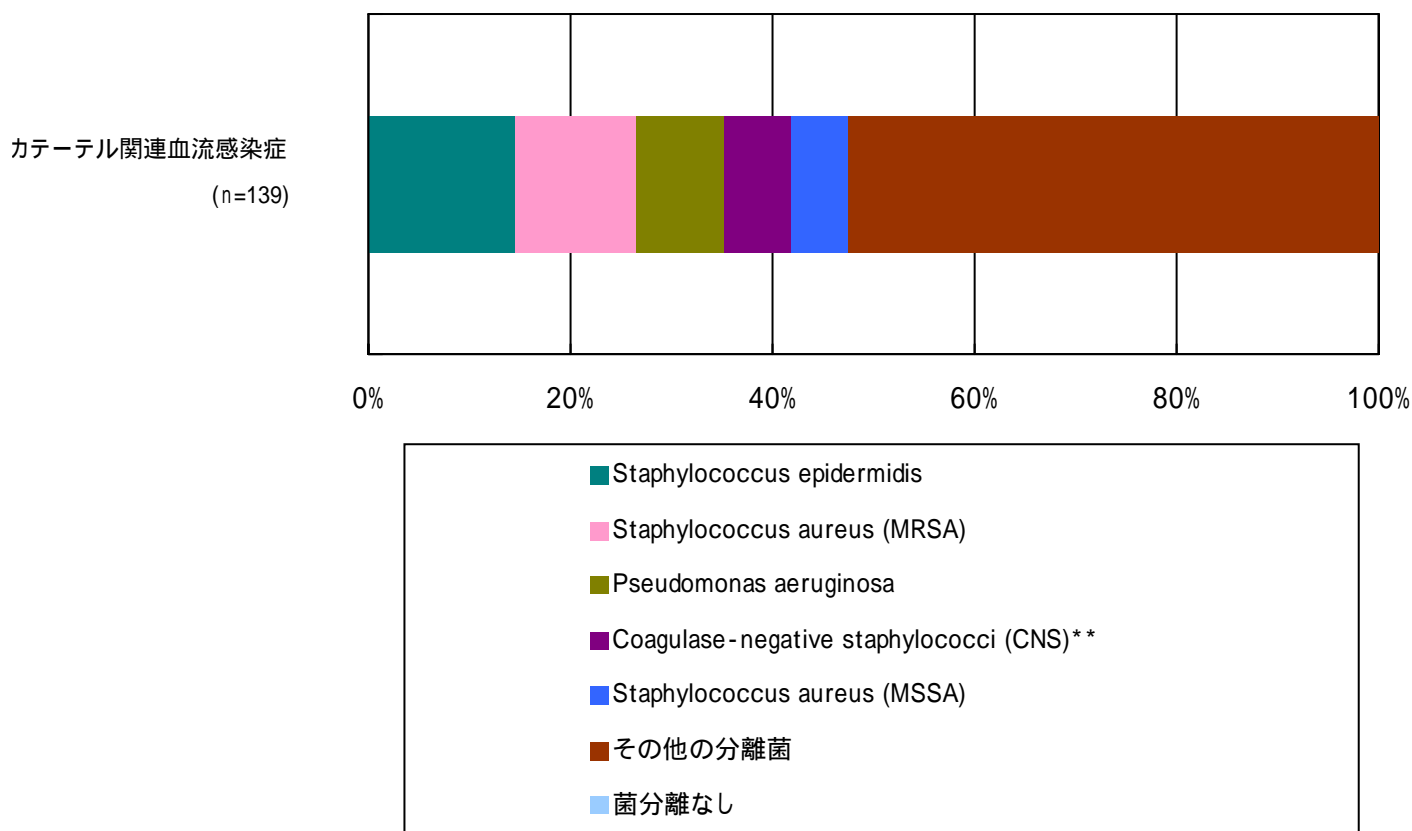


原因菌 *	原因菌分離件数 (%)	
Pseudomonas aeruginosa	17	(30.4%)
Escherichia coli	8	(14.3%)
Candida albicans	6	(10.7%)
Enterococcus faecalis	4	(7.1%)
Yeasts	2	(3.6%)
その他の分離菌	18	(32.1%)
菌分離なし	1	(1.8%)
合計	56	(100.0%)
培養検査なし	2	

(原因菌は上位5菌種のみ表示しています。)

*菌名は菌名コード (http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode_ver3.1_20070701.xls) に準拠

4 . 感染症別原因菌（カテーテル関連血流感染症）



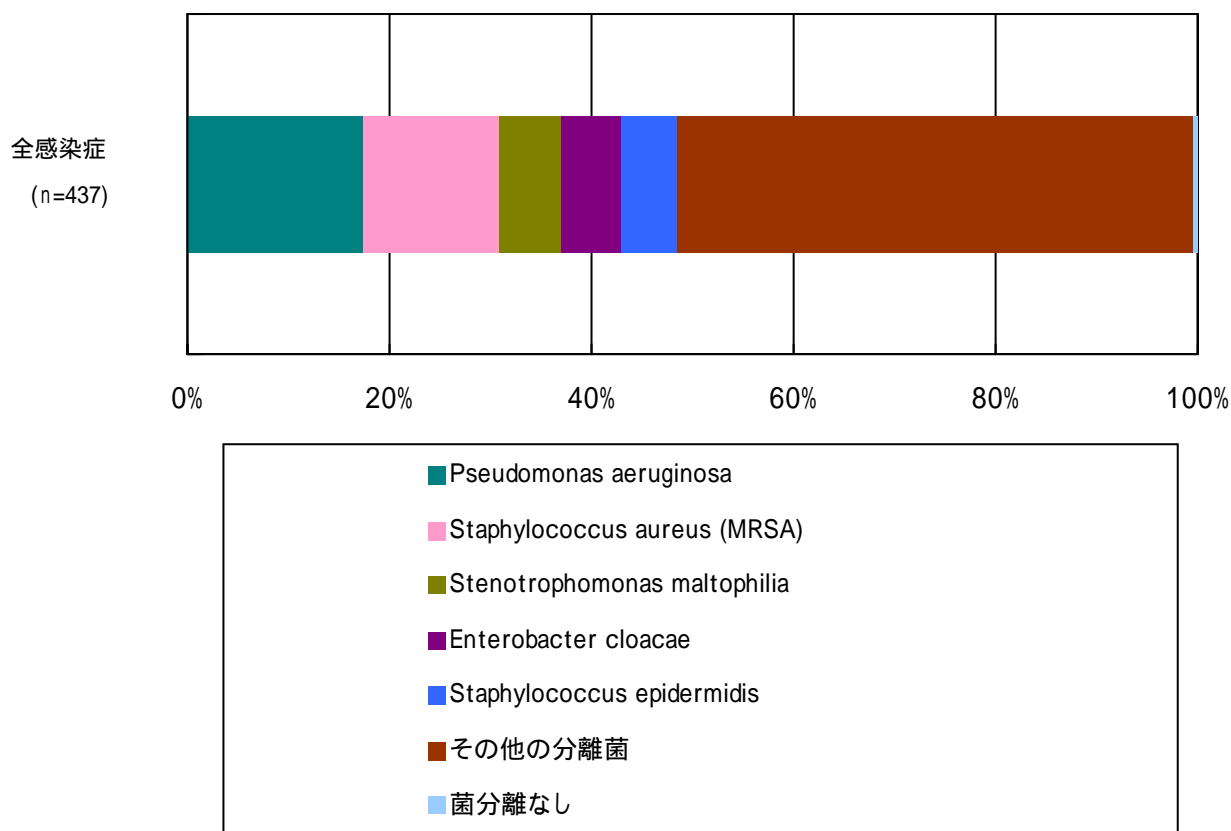
原因菌 *	原因菌分離件数 (%)	
Staphylococcus epidermidis	20	(14.4%)
Staphylococcus aureus (MRSA)	17	(12.2%)
Pseudomonas aeruginosa	12	(8.6%)
Coagulase-negative staphylococci (CNS)**	9	(6.5%)
Staphylococcus aureus (MSSA)	8	(5.8%)
其他の分離菌	73	(52.5%)
菌分離なし	0	(0.0%)
合計	139	(100.0%)
培養検査なし	0	

(原因菌は上位5菌種のみ表示しています。)

*菌名は菌名コード(http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode_ver3.1_20070701.xls)に準拠

**S.epidermidis (菌名コード:1312)と報告された菌は除く

4 . 感染症別原因菌（全感染症）*



原因菌 **	原因菌分離件数 (%)	
Pseudomonas aeruginosa	76	(17.4%)
Staphylococcus aureus (MRSA)	59	(13.5%)
Stenotrophomonas maltophilia	27	(6.2%)
Enterobacter cloacae	26	(5.9%)
Staphylococcus epidermidis	24	(5.5%)
その他の分離菌	223	(51.0%)
菌分離なし	2	(0.5%)
合計	437	(100.0%)
培養検査なし	2	

(原因菌は上位5菌種のみ表示しています。)

*人工呼吸器関連肺炎・尿路感染症・カテーテル関連血流感染症の合計

**菌名は菌名コード (http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode_ver3.1_20070701.xls) に準拠